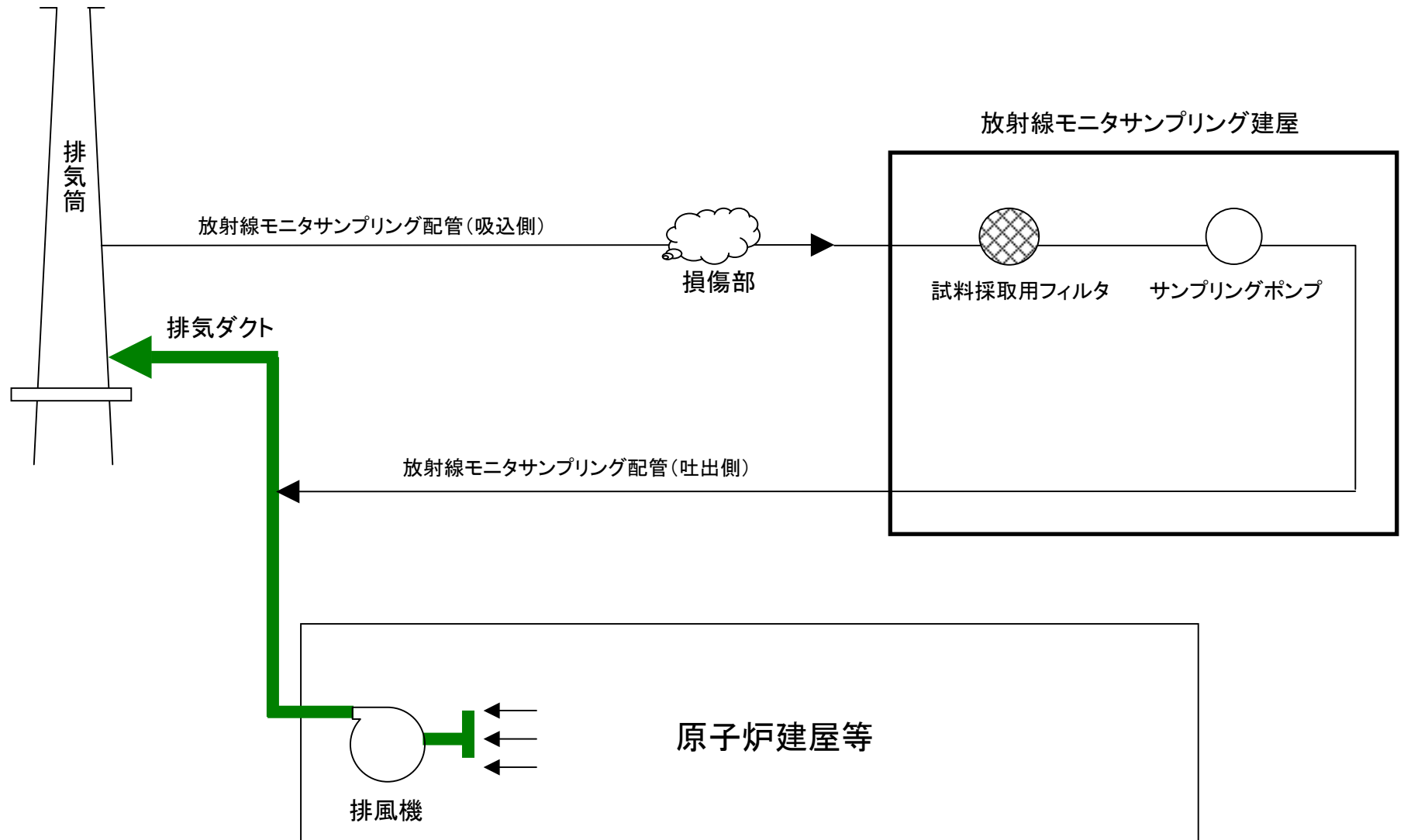


区分：その他

号機	3号機	
件名	排気筒放射線モニタサンプリング配管の損傷について	
不適合の概要	<p>(事象の発生状況) 定期検査中の3号機において、主排気筒放射線モニタサンプリング配管*について保温材取外し後の点検を実施していたところ、平成20年10月14日午後1時3分頃、当該配管の吸込側配管(直径約20mm)に幅約4mm(最大)、長さ約5cmの損傷が1箇所あり、外気を吸引している可能性があることを確認しました。 なお、当該配管のその他の箇所については、異常はありませんでした。</p> <p>(原因) 当該配管が損傷した原因については調査中です。</p> <p>(安全性、外部への影響) 当該配管(吸込側)は、主排気筒から放出される気体を吸い込み放射能濃度を測定するための配管であり、外部に比べて常に圧力が低くなっていることから、当該損傷部から配管内の空気が外部に漏れることはありません。 一方、当該損傷部から外気を吸引すると当該配管内の空気が希釈されて放射能濃度の評価に影響を与える可能性があるものの、当該損傷部は保温材(厚さ約3cm)で覆われているため、その影響は小さいものと考えております。</p> <p>* 主排気筒放射線モニタサンプリング配管 原子力発電所から出る気体中に含まれる放射性物質を測定するために、主排気筒から放出される気体の一部を取り出し、専用の試料採取装置に導く配管。</p>	
安全上の重要度 / 損傷の程度	<p><安全上の重要度> 安全上重要な機器等 / <u>その他設備</u></p>	<p><損傷の程度> 法令報告要 法令報告不要 調査・検討中</p>
対応状況	<p>今後、損傷した配管を交換するとともに、配管損傷の原因について地震との関連も含めて調査します。 また、当該損傷部からの外気の吸引による放射能濃度測定評価への影響についても詳細に評価を行います。</p>	



排気筒放射線モニタサンプリング配管の概要